

令和4年度芸術系教科等担当教員等 全国研修会 実施要項

1 目的

芸術系教科等担当教員等に対し、学習指導要領の趣旨を踏まえた理論研修・実践研修を実施し、指導方法や評価方法等の工夫改善等につなげ、初等中等教育の芸術系教科等における指導の充実に資することを目的とする。

2 主催 文化庁

3 共催 全国芸術系大学コンソーシアム及び協力大学

4 開催期日 【第1回】 令和4年12月15日(木)

【第2回】 令和5年2月13日(月)

5 日程(予定)

9:00 9:30 9:45 10:25 10:45 11:45 13:00 16:00 16:20 16:40

受付	開講式 ※1	全体研修 ※1	休憩・準備	理論研修 (教科・科目別) ※1	昼食	テーマ別 実践研修 (教科・科目別) ※2	休憩・準備	全体講評 ※3
----	-----------	------------	-------	------------------------	----	-----------------------------	-------	------------

※1 午前中の開講式、全体研修、理論研修については、オンライン配信を想定。

※2 午後のテーマ別実践研修は、選ぶテーマによって受講方法が決まる。

(参集またはオンライン)

※3 全体講評はオンライン配信を想定。

※4 受講方法が参集の場合、全体研修、理論研修、全体講評は、担当大学が指定する会場にてオンライン配信を視聴する。

6 カリキュラム内容

(1) 全体研修では、芸術系教科等の意義、役割、新学習指導要領の趣旨を踏まえた今後の学習指導における課題や可能性など、教科・科目別の理論研修では、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の在り方や学習評価等についての講義を、文化庁教科調査官等が担当して行います。

(2) テーマ別実践研修は、学習指導要領の趣旨やねらいの実現を目指す授業を展開するための実践手法を中心とした研修プログラムとします。具体的には、「A 表現」及び「B 鑑賞」の授業実践と結び付いた実技研修、教材研究の方法、実践事例を通じた指導法の検討、指導に生きる学習評価の実際等とし、芸術系大学教員や広く活躍している芸術家等が担当として行います。

(3) 各研修（理論研修及びテーマ別実践研修）は次のとおり開催します

教科・科目	第1回（12月15日）		第2回（2月13日）	
	研修番号	予定定員	研修番号	予定定員
小学校音楽科	小音1	参集 20名 オンライン 40名	小音3	参集 30名 オンライン 30名
	小音2	オンライン 40名	小音4	参集 20名
小学校図画工作科	小図1	参集 15名	小図3	参集 15名
	小図2	参集 20名	小図4	参集 20名
			小図5	参集 20名
中学校音楽科 高等学校芸術科(音楽)	中高音1	参集 30名 オンライン 30名	中高音3	参集 30名 オンライン 30名
	中高音2	参集 30名	中高音4	オンライン 100名
			中高音5	参集 20名 オンライン 20名
中学校美術科 高等学校芸術科(美術)	中高美1	参集 20名	中高美6	参集 20名
	中高美2	オンライン 40名	中高美7	参集 40名
	中高美3	参集 30名	中高美8	参集 40名
	中高美4	参集 20名	中高美9	参集 20名
	中高美5	参集 30名	中高美10	参集 20名
			中高美11	参集 20名
中学校美術科 高等学校芸術科(工芸)	中高美工1	オンライン 15名		
	中高美工2	参集 20名		
	中高美工3	参集 10名		
高等学校芸術科(書道)	高書1	参集 40名	高書2	オンライン 40名

7 研修方法（参集またはオンライン）

- 今年度は、受講するテーマによって、参集受講か、オンライン受講かが決まります。
- 参集受講のテーマの場合は、各会場までお越しください。
- オンライン受講のテーマの場合は、カメラ、マイク機能のあるPC（ノート型、タブレット型等）またはスマートフォンが必要です。
- オンラインツールは、WEB配信システム（ZOOM等）を使用していきます。

8 受講者

(1) 受講資格

- ・ 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭等であって、芸術系教科等を担当している者又は予定している者
- ・ 都道府県、指定都市教育委員会の指導主事等
- ・ 原則として、終日研修に参加できる者
- ・ 参集研修を受講する場合は、担当大学が指定する会場に終日滞在できること
- ・ オンライン研修を受講する場合に必要な機器、受講場所等を準備できること

(2) 受講募集人数

- 各都道府県、指定都市から第1回、第2回それぞれ教科・科目ごとに募集人数を定めます。
 - 小学校音楽科：2名
 - 小学校図画工作科：3名
 - 中学校音楽科/高等学校芸術科(音楽)：3名
 - 中学校美術科/高等学校芸術科(美術)：6名
 - 中学校美術科/高等学校芸術科(工芸)：2名
 - 高等学校芸術科(書道)：2名
- 私立学校、国公立大学附属学校はそれぞれ別途受け付けます。
- 各研修の受入れ可能人数を超えた場合は、調整することがあります。
- 各都道府県、指定都市については上記募集人数の他、各教科・科目ごとに最大5名迄追加申込みを受け付けます。
- 各研修の受け入れ可能人数を下回った場合は、追加申込みの中から受講人数を補充調整することがあります。
- 受講資格を持っていても、第1回、第2回を重複して受講することはできません。(第1回を受講する方は、教科・科目に関わらず第2回分の受講希望を出すことはできません。)
- 極力所属自治体近くの大学での受講を検討ください。

(3) 受講希望報告

各教育委員会等は(別紙1)「受講希望者の報告等について」に基づき、「受講希望者名簿」を作成し、第1回(12月15日開催)分については、令和4年11月8日(火)までに、第2回(2月13日開催)分については、令和5年1月6日(金)までに、事務局宛てに、電子メールで報告してください。

9 受講者の決定

- 第1回(12月15日)分について、11月中旬を目途に、第2回(2月13日)分について、1月中旬を目途に研修参加者を決定し、都道府県及び指定都市教育委員会等に対して、通知するものとする。
- 研修参加希望者が多数の場合は、文化庁で調整の上、決定・連絡する。

10 その他

- 本研修会は、目的に基づき芸術系教科等に関する理論及び実践研修を中心とするものであることを理解した上で受講すること。
- 本研修終了時に、受講者アンケート等を行う。また、本研修会の参加後、本研修会の成果をどのように活用したか等について、報告を求めることがある。
- 研修会受講に係る服務等については、各教育委員会、所属校等の判断によるものとします。
- 「受講希望者名簿」のエクセルファイルはメールにて送付します。
- 宿泊が必要な場合は各自で準備するものとする。

全国研修会の研修テーマ等について

【第1回】 令和4年12月15日（木）開催分

教科	研修番号	研修テーマ等	講師	担当大学（予定定員）
小学校 音楽科	小音1	ICTを活用した音楽科授業： 「音楽づくり」と「鑑賞」を中心に	杉山陽介：東京藝術大学特任助教 市川 恵：東京藝術大学特任准教授	東京藝術大学 (参集20、オンライン40)
	小音2	声の表現を探究する活動	寺内大輔：広島大学准教授 三宅悠太：作曲家・エリザベト音楽大学 非常勤講師	エリザベト音楽大学 (オンライン40)
小学校 図画工作科	小図1	「場の発想、場の変容、場の創出」考え方が わかる！ 場所や空間を生かした高学年の造形遊びの指導と ICTの活用	酒匂克之：東京造形大学准教授 石賀直之：東京造形大学教授	東京造形大学 (参集15)
	小図2	あかりがつくる造形活動 －伝統芸能としての影絵から主体的・対話的で深い 学びのある授業づくりへ－	首藤幹夫：東京造形大学教授 小林貴史：東京造形大学教授	東京造形大学 (参集20)
中学校音楽科・ 高等学校芸術科 (音楽)	中高音1	生徒の興味・関心を高める鑑賞指導の工夫 ～「音楽表現の共通性や固有性」に着目して～	千住 明：作曲家・東京藝術大学客員教授 佐野 靖：東京藝術大学副学長・教授	東京藝術大学 (参集30、オンライン30)
	中高音2	創作の活動におけるICT活用	山口友寛：京都市立芸術大学非常勤講師 清水久莉子：京都市立芸術大学特任講師	京都市立芸術大学 (参集30)
中学校美術科・ 高等学校芸術科 (美術)	中高美1	言語活動からイメージや形へ ～デザイン的思考プロセスの深化～	中林鉄太郎：東京造形大学教授 山田 猛：東京造形大学教授	東京造形大学 (参集20)
	中高美2	ポップカルチャー作品の鑑賞活動における可能性	春原史寛：武蔵野美術大学准教授 三澤一実：武蔵野美術大学教授	武蔵野美術大学 (オンライン40)

教科	研修番号	研修テーマ等	講師	担当大学（予定定員）
中学校美術科・ 高等学校芸術科 (美術)	中高美3	解き放たれた絵画 / ミニアートブックの制作	高浜利也：武蔵野美術大学教授 所 彰宏：武蔵野美術大学助教 田中千里：武蔵野美術大学学部生 大坪圭輔：武蔵野美術大学教授	武蔵野美術大学 (参集 30)
	中高美4	平面なのに立体？パズルで考える	大森 啓：金沢美術工芸大学教授	金沢美術工芸大学 (参集 20)
	中高美5	日本画鑑賞の授業づくり ～材料や技法から思考する鑑賞活動～	谷内春子：京都市立芸術大学講師 飯田真人：京都市立芸術大学教授	京都市立芸術大学 (参集 30)
中学校美術科・ 高等学校芸術科 (工芸)	中美高工1	錫による、技法・表現の可能性 －鍛金皿の制作を通して－	尾澤 勇：秋田公立美術大学教授	秋田公立美術大学 (オンライン 15)
	中美高工2	漆芸 蒔絵技法 ～縄文時代から続く漆文化、日本の伝統技法「蒔絵」 を通して漆を知る～	青木宏憧：東京藝術大学准教授 渡邊五大：東京藝術大学准教授 佐々木岳人：東京藝術大学非常勤講師 新井寛生：東京藝術大学教育研究助手	東京藝術大学 (参集 20)
	中美高工3	簡易窯の築窯と焼成方法（低下度釉を用いた焼物）	山田 聡：沖縄県立芸術大学教授 島袋克史：沖縄県立芸術大学講師	沖縄県立芸術大学 (参集 10)
高等学校芸術科 (書道)	高書1	書道教育における鑑賞の授業の工夫 －知的財産権を踏まえた鑑賞指導の在り方－	加藤泰弘：東京学芸大学教授 鍋島稲子：台東区立書道博物館主任研究員 加藤眞太郎：愛知県立松蔭高等学校教諭	東京学芸大学 (参集 40)

全国研修会の研修テーマ等について

【第2回】 令和5年2月13日（月）開催分

教科	研修番号	研修テーマ等	講師	担当大学（予定定員）
小学校 音楽科	小音3	「歌唱」と「音楽づくり」の関連を図った授業展開： 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに着目して	三宅悠太：作曲家 市川 恵：東京藝術大学特任准教授	東京藝術大学 (参集 30、オンライン 30)
	小音4	音楽づくり指導の要点 －「音遊びや即興的に表現する」活動から「音を音楽へと構成する」活動へのつながりに焦点を当てて－	寺内大輔：広島大学准教授 中谷政文：エリザベト音楽大学講師	エリザベト音楽大学 (参集 20)
小学校 図画工作科	小図3 (小図1と 同じ)	「場の発想、場の変容、場の創出」考え方が わかる！ 場所や空間を生かした高学年の造形遊びの指導と ICTの活用	酒匂克之：東京造形大学准教授 石賀直之：東京造形大学教授	東京造形大学 (参集 15)
	小図4 (小図2と 同じ)	あかりがつくる造形活動 －伝統芸能としての影絵から主体的・対話的で深い 学びのある授業づくりへ－	首藤幹夫：東京造形大学教授 小林貴史：東京造形大学教授	東京造形大学 (参集 20)
	小図5	身近な紙を材料に用いて「造形遊び」および「感性 を働かせる」、「身近な紙を材料に用いた、造形遊び をする活動を通して、感性を働かせて活動を工夫し てつくることができるようにする」活動の展開（実 践的な方法の提案）と言葉から表したいことを見付 ける活動を活用して「絵に表す」活動に展開する授 業について	小倉 隆：常葉大学短期大学部教授 合津正之助：常葉大学教授	常葉大学 (参集 20)

教科	研修番号	研修テーマ等	講師	担当大学（予定定員）
中学校音楽科・ 高等学校芸術科 (音楽)	中高音3	「音楽とサウンドの創作技法」 -ICT で身近になった映像から発想する音楽とサウンド-	西岡龍彦：作曲家・東京藝術大学名誉教授 深水悠子：東京藝術大学特任講師	東京藝術大学 (参集 30、オンライン 30)
	中高音4	歌唱、器楽、創作における旋律のあり方を根源的に考え直すとともに、その歌い方、奏で方、つくり方を考える。 創作において教材とする音楽について、その音楽の成り立ちやクラシック以外のジャンルの音楽との関わりを通して考える。	荻久保和明：東邦音楽大学大学院 特任教授	東邦音楽大学 (オンライン 100)
	中高音5	デジタル・デバイスを使用した音楽づくり-基本と展開-： STEAM 教育と SDGs の将来を見据えて	川上 統：エリザベト音楽大学講師 壬生千恵子：エリザベト音楽大学教授	エリザベト音楽大学 (参集 20、オンライン 20)
中学校美術科・ 高等学校芸術科 (美術)	中高美6 (中高美1 と同じ)	言語活動からイメージや形へ ～デザインの思考プロセスの深化～	中林鉄太郎：東京造形大学教授 山田 猛：東京造形大学教授	東京造形大学 (参集 20)
	中高美7	「知識及び技能」の実感を伴う習得と、表現と鑑賞をより豊かにする教科の本質に迫る題材開発の提案	三澤一実：武蔵野美術大学教授	武蔵野美術大学 (参集 40)
	中高美8	創造的「思考力、判断力、表現力」を基軸とした新しい共創型デザイン教育	長谷川敦士：武蔵野美術大学教授 井口博美：武蔵野美術大学教授 石川卓磨：武蔵野美術大学講師 山本麻璃絵：武蔵野美術大学助教 小山さくら：武蔵野美術大学助教 大坪圭輔：武蔵野美術大学教授	武蔵野美術大学 (参集 40)
	中高美9	版画表現の広がりとその魅力-「版」の展開	阿部大介：女子美術大学准教授 鈴木淳子：女子美術大学教授	女子美術大学 (参集 20)

教科	研修番号	研修テーマ等	講師	担当大学（予定定員）
中学校美術科・ 高等学校芸術科 （美術）	中高美10	絵に表現する活動を通して、言語活動の充実を図り、対象を見つめ感じ取った形の特徴や美しさを捉える授業づくりについて	合津正之助：常葉大学教授 長橋秀樹：常葉大学教授	常葉大学 （参集20）
	中高美11 （中高美4 と同じ）	平面なのに立体？パズルで考える	大森 啓：金沢美術工芸大学教授	金沢美術工芸大学 （参集20）
高等学校芸術科 （書道）	高書2 （高書1と 同じ）	書道教育における鑑賞の授業の工夫 —知的財産権を踏まえた鑑賞指導の在り方—	衣川彰人：愛知教育大学教授 鍋島稲子：台東区立書道博物館主任研究員 加藤眞太郎：愛知県立松蔭高等学校教諭	愛知教育大学 （オンライン40）